２０２２年度

愛 知 の 音 楽 教 育

（第５４集）

もくじ

Ⅰ　はじめに　2

Ⅱ　教育課程編成にあたっての基本的な考え　3

Ⅲ　授業実践　4

思いや意図をもって試行錯誤しながら表現できる小学校音楽科指導

― 音楽を形づくっている要素を分析し、グループで練習する活動を通して ―

豊明市立大宮小学校での実践

豊明市立栄小学校　澤下　了輔

１　主題設定の理由

２　研究の方法

３　研究の実際

４　研究の考察

５　今後の課題

Ⅳ　第７２次教育研究愛知県集会のまとめ　１１

愛知教職員組合連合会　教育課程研究委員会音楽部会

２０２２年度　教育課程研究委員

ブロック推薦　　◎部長○副部長

名古屋			尾張			三河		
氏名	単組	学校名	氏名	単組	学校名	氏名	単組	学校名
◎佐藤　裕佳	名古屋	星ヶ丘小	長瀬　麻美	稲沢	祖父江中	梶野　琴絵	刈谷	平成小
○福田　純也	名古屋	守山中	寺澤　真智子	知教連	阿久比中	○近藤　章博	蒲郡	塩津中

第６８次～７１次教育研究全国集会リポート提出者

６８次			６９次			70 次	７１次		
氏名	単組	学校名	氏名	単組	学校名	―	氏名	単組	学校名
後山　あかね	名古屋	丸の内中	中島　明子	豊田	逢妻中	―	澤下　了輔	愛知	栄小

第 72 次教育研究全国集会リポート提出者…　花井　朋美（西尾・西尾中）

Ⅰ　はじめに

いじめ、不登校など、教育現場における課題は山積している。それに加え、今年度もコロナ禍は続き、新しい生活様式による制約を続けていくなど、特に音楽科の授業においては、さまざまな配慮を求められている。歌唱や器楽演奏などが制限される中、「何ができるのか」を考え、さまざまな対策を講じながらの授業実践となった。

これらのさまざまな困難の中、小学校において全面実施となった新学習指導要領。新しい生活様式での制限のもと、新学習指導要領においてわたくしたちがめざす「ゆたかな学び」とは何か、その実現にむけてわたくしたち音楽教員ができることは何か、音楽という教科だからこそできることは何かを念頭に置きながら、日々の実践を積み重ねている。

美しい音楽を聴いて感動する豊かな心を育み、音楽表現を通して仲間とかかわり合う喜びを味わわせることができる音楽教育。そこには、多くの可能性があるといっても過言ではないだろう。今一度、音楽教育の重要性と可能性を再認識し、目の前の子どもたちに向き合っていくことが大切だと考える。

愛知の教育は、これまで「人づくりと音楽」を柱にして実践を積み重ねてきた。これは、表現は一人ひとりの心の現れであり、よりよい表現を求めることは、感性を育み、豊かな情操を養うことにつながるという考えがもととなっている。第７２次教育研究愛知県集会は久しぶりの対面開催となった。集められたリポートは１８本。これらは、第７１次までに積み上げられた課題にもとづいて、本年度も続くコロナ禍の中で、試行錯誤しながら実践が進められたものである。音楽の授業を通してどんな子どもを育てるのか、めざす子どもを育むために身につけさせるべき力とは何か、めざす子どもを育てるための基礎・基本の指導方法や教材選択のあり方、ＩＣＴ機器を活用した効率的な授業展開や音楽表現を高める工夫が多数報告され、活発な議論が行われた。

今回の授業実践として示すものは、一昨年度、全国大会にて報告されたリポートであり、実践者が、目の前の子どもたちに真摯に向き合った成果である。これらが、愛知の子どもたちの豊かな学びにつながる、愛知の音楽教育の一助となれば幸いである。

Ⅱ　教育課程編成にあたっての基本的な考え

○「基礎・基本」

音楽科では、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことがねらいである。

そこで、以下の点について重点的に指導したい。

① 歌唱・器楽の活動

- 音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏することや、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。
- 呼吸及び発声の仕方を工夫して自然で無理のない響きのある歌い方で歌ったり、楽器の特徴を生かして楽器演奏をしたりすること。
- 各声部の役割や全体の響きを感じ取り、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

② 音楽づくり・創作の活動

- 構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、さまざまな発想をもって即興的に表現したり、見通しをもって音楽をつくったりすること。
- 表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復・変化・対照などの構成を工夫しながら、簡単な旋律や音楽をつくること。

③ 鑑賞の活動

- 曲想やその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。
- 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

④ 共通事項について

- 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。
- 音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

○「生きてはたらく力」

世の中にある膨大な情報量の中から、自分の気に入った音楽を選んで、存分にかかわる力は、人生をより豊かにしていくためにも必要である。その中でも、合唱・合奏は他者の頑張りを尊重したり、足りない部分は補いあったりしながら、自分ひとりでは決して成し得ない音楽をつくりあげることで、社会での多様性や生き方を学ぶことができる。

また、社会の急速な変化により、人間関係が希薄になりつつある社会の中で、子どもたちが音楽を通したコミュニケーションを通じ、例えば音楽づくりの過程でどんなことを学び、経験し、時には試行錯誤しながらもその中で何かを発見し、音楽を作り上げながら逞しく成長していくことは、生きてはたらく力を身につけるために有効だと考える。

Ⅲ　授業実践

思いや意図をもって試行錯誤しながら表現できる小学校音楽科指導

― 音楽を形づくっている要素を分析し、グループで練習する活動を通して ―

豊明市立大宮小学校での実践

豊明市立栄小学校　澤下　了輔

１　主題設定の理由

大宮小学校児童は、音楽の授業に意欲的に取り組むことができ、元気よくいきいきと歌うことができる児童が多い。児童の一部には、よりよい発声をめざそうと自ら考えて歌うことができる児童も見られる。特にピアノなどの楽器を習っている児童については、音程感覚がしっかりしており、リコーダー演奏などの器楽の分野においても、スムーズに学習に取り組むことができる。学年にかかわらず「元気よく歌う」ことを最優先に取り組んでいるため、意欲的に歌うことについてはよい方向に働いていると感じる。反面、教師主導の場面が多く、自分で考えてよりよいものをめざそうとする児童は一部である。多くの児童が与えられた課題に取り組むが、音色や音程をはじめとして、自分が出す音はどうなっているかを考えながら活動することは少ない。

また、日常の学習活動では、題材となる楽曲に関する文章表現において、楽曲そのものの説明や、よりよく表現するための工夫を説明する上で、語彙力不足に起因する表現力の弱さを感じる。そこで、児童の現状を把握するために、学習カードを用いた調査(N=41)を実施した（資料１)。音楽を説明する際に使う言葉の多様性に関する質問（問１）では、本来使うべき「音楽を形づくっている要素を表現した言葉」を使っている児童は少数であった（資料２)。「音楽を形づくっている要素」とは、音楽を特徴付けている要素としての「音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど」と、音楽のしくみとしての「反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など」のことであると学習指導要領に定義されている。アンケートに書かれた文章を分析してみると、「音楽を形づくっている要素」で表現した言葉が約25%、「歌詞がよい曲」や「元気が出る曲」といった感想表現が約75%という結果だった（資料３)。次に、実際に曲を聴いた場合の実態も把握するため、まだ扱ったことのない教科書掲載の曲（「広い空の下で」）を視聴した後に、同様の説明を求めた（問２)。

【資料１　学習カードを用いた調査】

音楽の授業に関するアンケート

（　　）年（　　）組（　　）番　名前（　　）

1　あなたが音楽（曲）について説明するとき、どんな曲だと説明しますか。説明する言葉を書いてみましょう。具体的に曲名をあげて説明してもよいです。その場合、曲は何でもいいです。音楽の授業で知った曲でも、普段家で聴いている音楽でも、何でもいいです。具体的に曲名をあげなくても、どんな曲かを説明する言葉をなるべくたくさん書いてみましょう。

2　曲「　　」について、どんな曲ですか、説明しましょう。

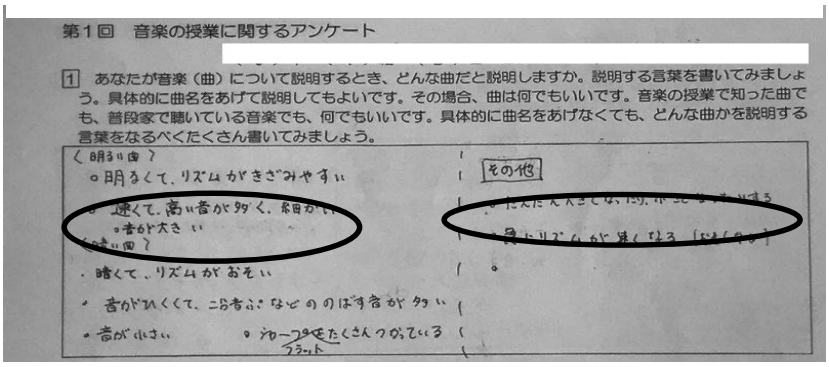
3　曲「　　」について、音楽を形づくっている要素を使って、「○○（要素）が△△な（説明）曲」という言い方で説明しましょう。グループで出た意見も書きましょう。

（自分の意見）

（グループで出た意見）

4　３で出た意見をもとにした練習を終えて、あらためてこの曲がどんな曲か、「○○（要素）が△△な（説明）曲」という言い方で説明しましょう。

【資料２　音楽を形づくっている要素を表現した言葉を使った記述】


第１回　音楽の授業に関するアンケート

1　あなたが音楽（曲）について説明するとき、どんな曲だと説明しますか。説明する言葉を書いてみましょう。具体的に曲名をあげて説明してもよいです。その場合、曲は何でもいいです。音楽の授業で知った曲でも、普段家で聴いている音楽でも、何でもいいです。具体的に曲名をあげなくても、どんな曲かを説明する言葉をなるべくたくさん書いてみましょう。

〈明るい曲〉
・明るくて、リズムがきざみやすい
・速くて、高い音が多く、細かい
・音が大きい

〈暗い曲〉
・暗くて、リズムがおそい
・音がひくくて、二分音符などののばす音が多い
・音が小さい
・ソプラノをたくさんつかっている（フラット）

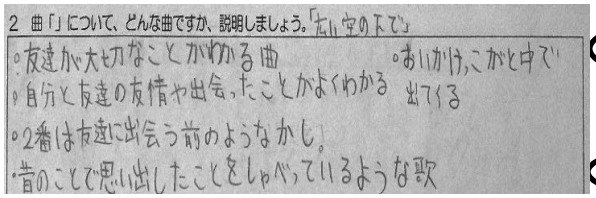
その他

【資料３　質問紙調査結果】

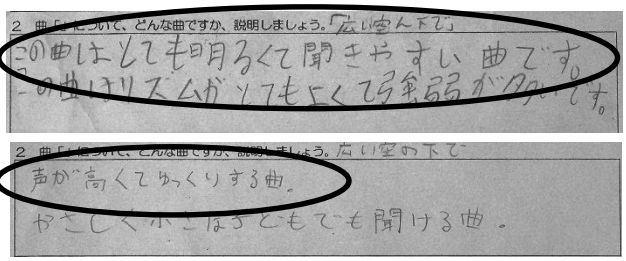
問	内容	要素を使った回答	感想表現
1	音楽を説明する際に使う言葉	25%	75%
2	「広い空の下で」を説明	24%	76%

ここでも、「明るい」「優しい」といった感想表現が多かった（資料４）。「音が高い」「ゆっくりな」「速い」といった、曲想が理解できているのかが把握しづらい回答も散見された（資料５）。この傾向は音楽的素養の有無にかかわらなかった。このことは、児童の多くが、「音楽を形づくっている要素」を意識した表現ができない可能性を示唆していると考える。

【資料４　感想表現の回答】


2 曲「」について、どんな曲ですか、説明しましょう。「広い空の下で」
・友達が大切なことがわかる曲
・自分と友達の友情や出会ったことがよくわかる
・おいかけっこかと中で出てくる
・2番は友達に出会う前のようなかも。
・昔のことで思い出したことをしゃべっているような歌

【資料５　曲想の理解が把握しづらい回答】


2 曲「」について、どんな曲ですか、説明しましょう。「広い空の下で」
この曲はとても明るくて聞きやすい曲です。
この曲はリズムがとてもよくて弱強がはっきりしています。
2 曲「」について、どんな曲ですか、説明しましょう。「広い空の下で」
声が高くてゆっくりする曲。
やさしく小さなこどもでも聞ける曲。

研究を進める上で、校内において「音楽を形づくっている要素」についての共通理解を進めている。その中で、児童が「音楽を形づくっている要素」を正しく認識することは、児童が楽曲を客観的に分析するための基準をもつことであると確認された。この点において、児童による分析は、その楽曲にはどのような特徴やよさがあるかをよりよく理解することにつながり、その楽曲を演奏する上での留意点にもなりうると考える。

大宮小学校では、新学習指導要領が求めている主体的・対話的な学びを進めて深い学びへとつなげていく手段としての、協同的な学びについて実践研究を行っており、ペアやグループでの活動を積極的に取り入れている。本研究においても、協同的な学びを取り入れる。具体的には、ペアやグループで、楽曲のよさをいかした表現の仕方を工夫する。その過程で、「音楽を形づくっている要素」を意識した言葉を使っていくことで、よりよく楽曲を表現できるようになると考える。

２　研究の方法

⑴ めざす児童像

○楽曲のよさを協同で分析し、「音楽を形づくっている要素」を適切に使って、言葉で説明できる児童 ○「音楽を形づくっている要素」を使った楽曲の説明をもとに、そのよさをよりよく表現するための歌唱方法を試行錯誤しながら練習できる児童

⑵ 研究の仮説

めざす児童像の実現のために、以下のように仮説を設定する。

【仮説１】　「音楽を形づくっている要素」としての言葉とその意味を習得して、それらを用いて楽曲を説明できれば、適切に楽曲を分析することができるであろう。

【仮説２】　グループで練習する場面において、「～（思いや意図）のために○○（要素）を△△（工夫）してみよう」といった、話型を使うことで、よりよく協同的に楽曲練習を進めることができるであろう。

⑶ 研究の手だて

ア　手だてⅠ　要素の意識化と楽曲分析を可能にする話型の定着

(ｱ) 要素の意識化を可能にする手だて

「音楽を形づくっている要素」を子どもたちに定着させるため、要素カードを作成した。意識させたい要素を視覚的にも把握できるようにする。これらの要素カードで明示した語彙は、学年にかかわらない内容であることから、児童だけでなく、全ての教員もこれらの要素を意識できるように、音楽室に常に掲示し、誰でも日常的に活用できるようにする（写真１）。

(ｲ) 話型を定着させる手だて

楽曲を分析する場面において、それぞれの要素が、実際に鳴っている音の何の部分を表しているのかを個人やグループで検討させ、「○○（要素）が□□（分析）なので、～（感じたこと）である」という話型にもとづいて説明させる。

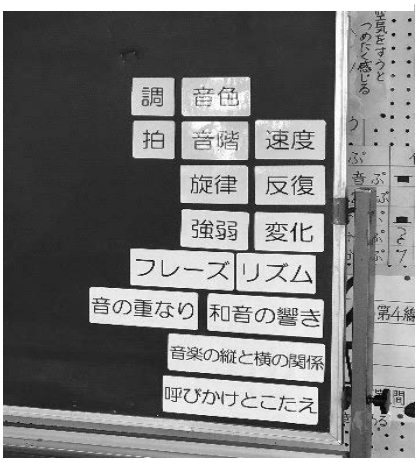
イ　手だてⅡ　話型を用いた協同学習

グループで歌の練習をする場面において、ただ繰り返し歌うだけでなく、どこをどのように工夫して歌うことが音楽のよさをよりよく表現できるようになることか、児童どうしで話し合いながら歌う。その際、「～（思いや意図）のために○○（要素）を△△（工夫）してみよう」という話型を常に意識する（写真２）。

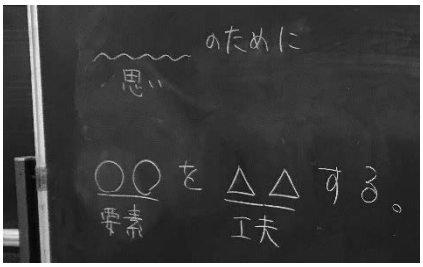
(4) 検証計画

事前と同様に、事後にも質問紙調査を行った（資料６）。前後の記述の変容に関して、「音楽を形づくっている要素」を用いた記述を量的に分析する。あわせて、話型の効果について、記述内容の変容から質的に分析する。取り組みの中で変容するに至った要因について検討する。対象学年は６年生41名とする（資料７）。

【写真１　要素カード】



【写真２　様式化した話型】



【資料６　事後調査】

音楽の授業に関するアンケート

（　）年（　）組（　）番　名前（　　）

1　あなたが音楽（曲）について説明するとき、どんな曲だと説明しますか。説明する言葉を書いてみましょう。具体的に曲名をあげて説明してもよいです。その場合、曲は何でもいいです。音楽の授業で知った曲でも、普段家で聴いている音楽でも、何でもいいです。具体的に曲名をあげなくても、どんな曲かを説明する言葉をなるべくたくさん書いてみましょう。

2　曲「大切なもの」について、どんな曲ですか、説明しましょう。

【資料７　対象学年　実施単元計画】

対象学年	小学校６年生41名
実施単元①	曲想を味わおう 「広い空の下で」 「まっかな秋」
実施単元②	心の歌 「ふるさと」

【資料８　学習カード】

音楽の授業に関するアンケート

（　）年（　）組（　）番　名前（　　）

1　あなたが音楽（曲）について説明するとき、どんな曲だと説明しますか。説明する言葉を書いてみましょう。具体的に曲名をあげて説明してもよいです。その場合、曲は何でもいいです。音楽の授業で知った曲でも、普段家で聴いている音楽でも、何でもいいです。具体的に曲名をあげなくても、どんな曲かを説明する言葉をなるべくたくさん書いてみましょう。

2　曲「　　」について、どんな曲ですか、説明しましょう。

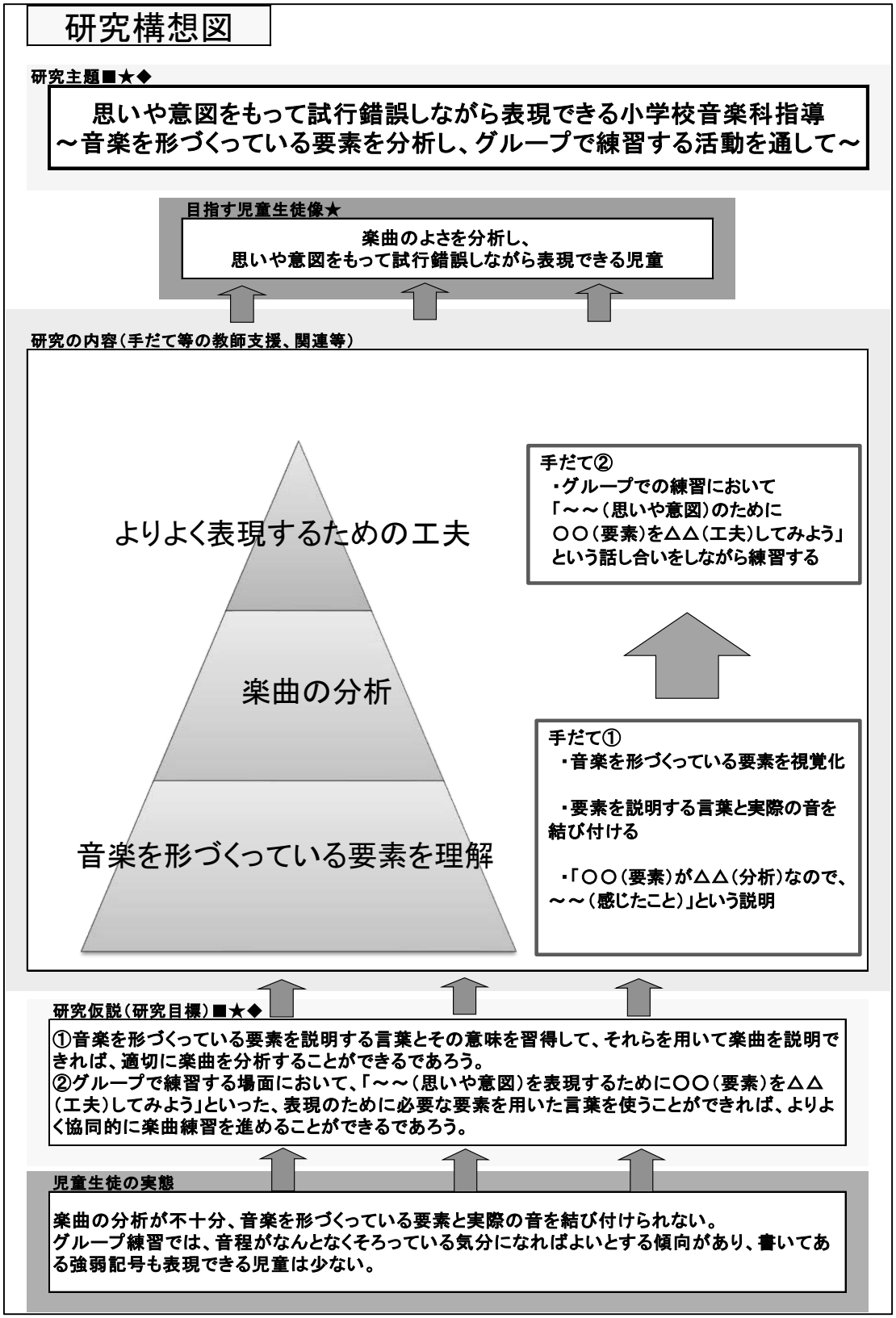
3　曲「　　」について、音楽を形づくっている要素を使って、「○○（要素）が△△な（説明）曲」という言い方で説明しましょう。グループで出た意見も書きましょう。

（自分の意見）

（グループで出た意見）

4　３で出た意見をもとにした練習を終えて、あらためてこの曲がどんな曲か、「○○（要素）が△△な（説明）曲」という言い方で説明しましょう。

(5) 研究構想図


研究構想図
研究主題■★◆
思いや意図をもって試行錯誤しながら表現できる小学校音楽科指導
～音楽を形づくっている要素を分析し、グループで練習する活動を通して～
目指す児童生徒像★
楽曲のよさを分析し、
思いや意図をもって試行錯誤しながら表現できる児童
研究の内容（手だて等の教師支援、関連等）
よりよく表現するための工夫
楽曲の分析
音楽を形づくっている要素を理解
手だて②
・グループでの練習において
「～～（思いや意図）のために
○○（要素）を△△（工夫）してみよう」
という話し合いをしながら練習する
手だて①
・音楽を形づくっている要素を視覚化
・要素を説明する言葉と実際の音を結び付ける
・「○○（要素）が△△（分析）なので、～～（感じたこと）」という説明
研究仮説（研究目標）■★◆
①音楽を形づくっている要素を説明する言葉とその意味を習得して、それらを用いて楽曲を説明できれば、適切に楽曲を分析することができるであろう。
②グループで練習する場面において、「～～（思いや意図）を表現するために○○（要素）を△△（工夫）してみよう」といった、表現のために必要な要素を用いた言葉を使うことができれば、よりよく協同的に楽曲練習を進めることができるであろう。
児童生徒の実態
楽曲の分析が不十分、音楽を形づくっている要素と実際の音を結び付けられない。
グループ練習では、音程がなんとなくそろっている気分になればよいとする傾向があり、書いてある強弱記号も表現できる児童は少ない。

３　研究の実際

⑴ 手だてⅠ　要素の意識化と楽曲分析を可能にする話型の定着

ア　要素の意識化を可能にする手だてを用いた授業実践

(ｱ) 実践方法

「曲想を味わおう」の第２時において、「音楽を形づくっている要素」について、要素カードを見せ、それぞれの要素の意味を説明した。その上で、学習カード第２問で扱った楽曲「広い空の下で」について、「○○（要素）が□□（分析）な曲」という言い方で説明する第３問に取り組ませた。（資料８－3）

(ｲ) 実践結果

学習カードに「強弱が高い」や、「音色が低い」という記述が32％見られたことから、「音楽を形づくっている要素」を使って楽曲を理解しようとする児童の意図が見られた。しかし、要素と要素を説明する言葉が適切に結びついていないような記述も見られた。また、「旋律の音が高い曲」や、「強弱が強い曲」などという記述も35％見られた。これらは、楽曲全体を表現した言葉ではなく、楽曲のある一部分の特徴を表現した言葉にすぎない。児童は、自身が強い印象を受けた楽曲のある一部分しか説明することができず、楽曲全体を表現した言葉をなかなか見出せないようだった。

イ　話型を定着させる手だてを用いた授業実践

(ｱ) 実践方法

３⑴アの結果を踏まえ、強弱と旋律の音の動きについて意識をむけさせて説明をさせることで、話型を定着させることにした。教材として、５年生の教材である「まっかな秋」を用い、クレシェンドとデクレシェンドの付き方について、なぜそのような表現の工夫がなされているのかを考えさせた。その工夫について考えさせることで、「強弱」と「旋律」といった「音楽を形づくっている要素」を用いて楽曲を分析できるようになり、そのことが要素どうしを関連付けて表現の工夫を考える際の助けになるだろうと考えた。

また、実際の音をもとに考えさせるため、話し合いだけでなく、楽譜上の記載がクレシェンドの部分はデクレシェンドで、デクレシェンドの部分はクレシェンドで歌ってみることで、楽譜どおりに歌ったときとの差を考える体験も取り入れた。楽曲の分析や表現の工夫を考える際には、実際に「歌う」（演奏する）という活動が伴うということも意識付けできると考えた。

(ｲ) 実践結果

楽譜どおりの強弱の付け方の方がよいと感じる児童が88％であったが、なぜその方がよいのか問いかけてみると、「なんとなくその方がいい気がする」などの答えが多く、説明できる児童は少なかった。そこで「旋律の音の動きを見てごらん」と声をかけた。すると「音が上がっていくときにクレシェンド、下がるときにデクレシェンドになっている」とつぶやいた児童がおり、その意見に多くの児童が共感している様子だった。

そこで、授業者から、「旋律の音が高くなるときに、強弱は強くなっていく」と、「音楽を形づくっている要素」同士を関連付けた説明をすることで、要素の意味を理解するとともに、その使い方の理解を進めた。説明後、その使い方を確認するために、「旋律」という要素を使って曲を説明する言葉をつくってみようと投げかけた。「旋律の音が高く（低く）なっていく」「旋律の音がなめらかに上がっていく（下がっていく）」「旋律の音が急に高く（低く）なる」という意見が出た。児童の中には、「旋律」「強弱」「変化」という三つの要素を用いて、楽曲の特徴を「旋律の音の高さと強弱が一緒に変化していく」と表現した児童がいた。この感想に対して、多くの児童が共感している様子が見られた。また、手だてに対するねらいとは異なる意見であるが、「楽譜を見ているだけより、歌った方がわかりやすい」という児童のつぶやきも聞かれた。

⑵ 手だてⅡ　話型を用いた協同学習

ア　表現の工夫を試行錯誤させる授業実践

(ｱ) 方法

６年生教科書掲載の「ふるさと」を用いて、強弱記号などを全て消した楽譜を準備した。二声の音程を確認し、まずは強弱を考えさせた。強弱が出そろったところで、「この曲のよさを強調するには、どう工夫して歌えばよいだろうか」という課題を与えて、グループで練習させた。

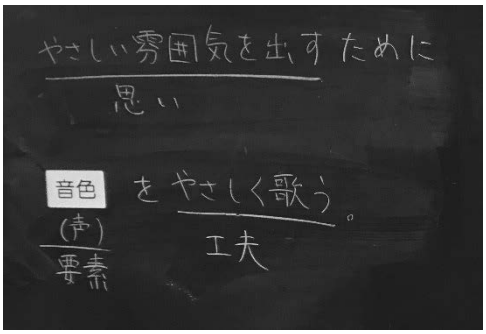
(ｲ) 結果

ここまでの学習が生かされ、意欲的に歌いながら強弱を考えることができ、実際の楽譜とほぼ変わらない

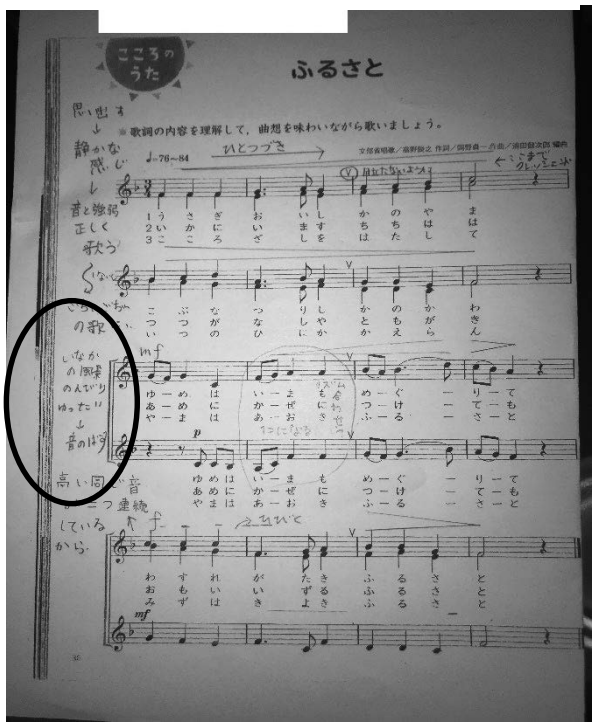
強弱を当てはめているグループがほとんどであった。実際の楽譜と違う強弱を書き込んだグループについても、「旋律の音の動きをもとに考えました」という意見があり、自分たちなりに「音楽を形づくっている要素」をもとに、実際に歌って音にしながら考えることができていた。

始めのうちは、要素を意識して「強弱の変化をはっきりさせよう」「旋律の音が切れないように歌おう」という意見が出ていた。しかし、しばらくすると、工夫を考える上での意図や思いと「音楽を形づくっている要素」とを結びつけた意見が出ないままに練習が進められていた。なぜ強弱の変化をはっきりさせるのか、なぜ旋律の音が切れないように歌うのかという目的が忘れ去られ、表現方法のみを試行錯誤する様子が見られた。

【資料９　話型に沿った表現】



【資料９　児童の楽譜への書き込み】



イ　話型を用いた協同学習の授業実践

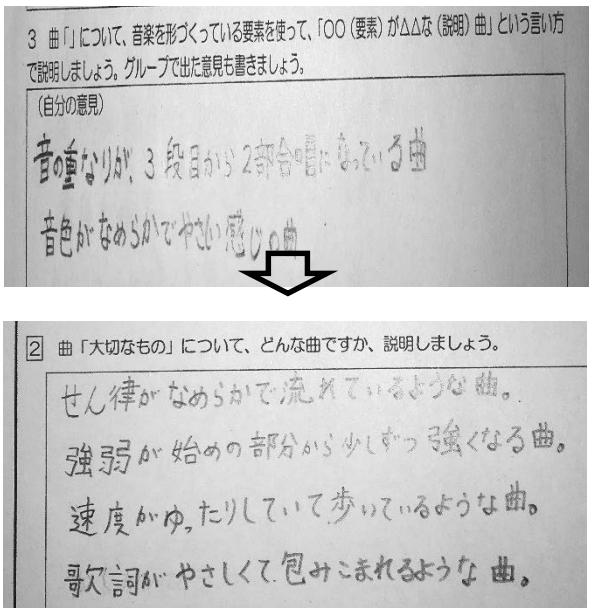
(ｱ) 方法

アと同じく、グループで「ふるさと」をよりよく表現するための工夫を考えさせた。その際に「～（思いや意図）のために、○○（要素）を△△（工夫）してみよう」という話型を示し、この話型を用いて楽曲を表現させた上で、練習に取り組ませた。

(ｲ) 結果

最初は、思いや意図の部分にどのような言葉をあてはめるのかわからない児童が多かった。しかし、「要素の分析をもとに考えると、この曲の特徴、よさは何だろう？」と再度問いかけたところ、「田舎の雰囲気」「静かな景色」「優しい雰囲気」などの言葉が出始めた。やがて、「優しい雰囲気のために、音色を意識して歌う」という声が上がった。そこで、「意識して」をもっとわかりやすく言うように指示したところ、「優しい雰囲気のために、音色を優しく歌う」という話型に沿った表現ができた（資料９）。それを全体に紹介したところ、他にも「和音の響きを整えるために、旋律の音程を正しく歌う」「なめらかに歌うために、旋律の音をつなげて歌う」「いなかの風景、のんびりした雰囲気を出すために、音をのばして歌う」という話型を意識した表現ができるようになった（資料10）。

【資料11　Ａの実践前と実践後の回答】



４　研究の考察

「音楽を形づくっている要素」を意識させて、楽曲の分析を繰り返したことで、「どんな曲？」という簡単な問いに対してでも「○○（要素）が」というように、まず主語に「音楽を形づくっている要素」を入れた発言ができるようになった。実際に、事後調査でも、音楽を説明する際に使う言葉の多様性に関する質問（問１）において、68%の児童が「音楽を形づくっている要素」を使って説明できるようになった。事後調査で

も、実際の楽曲である「大切なもの」（本学年の児童が４年生のときに、卒業式歌として扱われた楽曲）を説明させた。その結果、「音楽を形づくっている要素」を用い、話型を意識して説明できる児童が73％に上った。実践前は24％しか要素を意識した曲の説明ができていなかったことを考えると、本研究における手だてを用いることに効果があったことがわかる（資料11）。このことから、楽曲の分析をするということは、要素を分析することだという認識が児童に定着しつつあると考える。

また、児童が表現の工夫を考える学習では、実践前には「気持ちをこめて歌おう」や「強弱を意識して歌おう」という意見にとどまっていたものが、歌唱練習に協同学習を取り入れることで、分析的に楽曲をとらえて練習できるようになった。要素や話型といった形式知を教授することで、楽曲をよりよく理解した協同学習が展開できる可能性を示唆していると考える。

５　今後の課題

事後調査における問２において、「旋律の音が○○のときに強弱が○○になる」というような複数の「音楽を形づくっている要素」を組み合わせて楽曲を説明した記述が見られなかった。複数の「音楽を形づくっている要素」を組み合わせて分析することは、更に深く楽曲を理解できることにつながり、楽曲を豊かに表現する手段の習得につながると考える。本研究において明らかにした「形式知の教授」による分析力向上が、この点に関しても適用できるかどうかについて、引き続き検討する予定である。

また、グループで話し合うことが目的化され、話し合った内容について、音を出しながら試行錯誤するという活動が少なかったことも、課題として挙げられる。この点についても、より効果的な方法を検討する予定である。

〈参考文献〉文部科学省（2008）小学校学習指導要領解説音楽編 文部科学省

Ⅳ　第７２次教育研究愛知県集会のまとめ

一　全体を通して

音楽教育部会では、音楽表現等を通して子どもたちの変容をよりわかりやすくとらえるために、DVD による動画発表という形で進められた。全体を通して、GIGA スクール構想の広がりに伴い、ICT 機器、特にタブレット端末を活用した実践が多く報告された。さまざまな実践が報告される中で、子どもたちが実際に音楽表現をする場面での、いきいきとした表情が印象的だった。ICT 機器の活用は進めつつ、実際に楽器にふれる場面、地域との連携をもとに、地域のお祭りのお囃子や太鼓を経験する活動も大切にしたいという報告があった。(241 文字)

二　討論の内容

(1)他教科・領域・地域の特色と関連させた音楽教育のあり方

他教科・領域との関連については、中学校よりも小学校、小学校の中でも、高学年よりも低学年の方が、関連させやすいという意見が多かった。低学年ほど、担任の裁量によるところが大きいことが理由として考えられる。地域のお祭りのお囃子、太皷を地域の方から教えてもらい、保護者や他学年に披露する実践や、生活科の学習と関連させて、音楽で楽器をつくり、その楽器で下級生と遊ぶ実践が報告された。

中学校では、国語科との関連で歌詞の研究、また家庭科との関連では、歌えるマスクの製作という実践が紹介され、実物も紹介された。一般的なマスクと違い、バンダナを鼻に巻くような形で、下部分は固定されないものの、鼻から鎖骨のあたりまでの長さになっており、一般的なマスクよりも息苦しさがなく、歌いやすい構造になっていた。

(2)音楽教育におけるＩＣＴ機器などの効率的な活用方法

各自治体で、採用されている学習アプリに違いがあるものの、どの分会からも積極的な活用実践が報告された。教員がリコーダーの模範演奏をしている動画や、練習用の伴奏音源を配付し練習させる活動では、配付された動画や音源の再生速度を調整し、自分に合った速度から練習を始め、録音・録画機能を使って自分の演奏をチェックさせていた。学習進度を知るために子どもたち自身に自分の動画を撮影させ、教師に提出させていた。教師は一人ずつの動画をチェックし、コメントをつけて返信するという実践が報告された。鑑賞の活動においては、音楽を形づくっている要素に着目させるために、くらげチャートなどの思考ツールを用いて着目すべき要素を意識させたり、アプリを使って子どもたちの考えを共有させたりするといった活用例が報告された。他には、スクラッチで制作したリズムゲームを用いて楽しく競わせながらリズム感覚を養う活動の報告もあった。

三　来年度の課題

(1)子どもたちの主体的な音楽表現につながる ICT 機器の効果的な活用

(2)コロナ禍における、音楽教育と地域とのかかわり